（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援センター「ひゅうまん」			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	21名	（回答者数）	18名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	季節ごとのイベントや季節を感じられる創作活動、調理活動などを取り入れるよう工夫している。また野外活動も、みんなで考え意見を出し合い決定してできる環境を設けている。（発語のないお子さんには日頃から好きな物や、保護者からの意見を踏まえ、話し合いに盛り込む） 生活力、社会性、自主性が身につくようまたつながるよう、小集団での活動や自分の思いや意見を発信できるような環境設定や、相手の意見を聞ける環境作りを意識し行っている。	個の活動→小集団→集団活動→個の活動と将来に向け、ライフステージにあった活動内容を組み込んでいく。
2	障害の特性に応じ、バリアフリー化されていれる。	全面バリアフリーになっており、トイレや洗面所、キッチンも車いすの方でもゆとりを持って移動できるようになっている。職訪問介護員2級養成研修課程を終了している職員も多く配置されており、車いすの方も対応出来るようになっている。	クールダウンの部屋や、パーテーションなどの仕切りが内ワンフロアで、課題など注意散漫になってしまう場合がある。
3	生活空間はより家庭に近い環境で、アットホームな雰囲気の中、生活力が身につくよう活動を行っている。	学校や家庭とは違い、初めての社会の一歩として、家庭に近い環境で、様々な活動を通じて、経験や体験が積み重なり生活力が身につくよう支援を行っている。	集団活動と個別活動を組み合わせ、確実に身につくよう支援。 放課後という短い時間の中の積み重ねと、長期休みに成功体験ができるような活動を取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催	居住地が異なり、また学校もそれぞれ異なる。小学1年生から高校3年生までと年齢の幅が大きく、お迎えの時間も異なり、保護者同士の交流も難しい。	保護者会がなく、希望しない保護者の方もいる。今後、必要と感じる保護者の方がいれば検討していきたい。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会	居住地が異なり、また学校もそれぞれ異なる。小学1年生から高校3年生までと年齢の幅が大きく、どの学年にスポットをあてるか、異年齢との交流が難しかったり、それぞれのお子さんの持つ特性に配慮し交流していく難しさも感じる。	必要性を感じていない保護者や、希望しない保護者もいる。今後、必要と感じる保護者の方がいれば検討していきたい。
3	異学年での活動	同世代との関わり、関係作りの機会が乏しい。	異学年での良さを更に充実させること。 年齢ごと曜日を分けたり、活動内容を年齢で分けるなどの行っていきたい。